

# 建築研究所ニュース



平成19年12月14日

シンポジウム「火災リスクを考慮した火災安全設計法の開発に向けて」の  
実施について

独立行政法人建築研究所はシンポジウム「火災リスクを考慮した火災安全設計法の開発に向けて」を平成19年11月28日に東京で開催しました。建築研究所では、平成18年度より重点的研究開発課題として「火災リスク評価に基づく性能的火災安全設計法の開発」に取り組んでおります。昨年、京都で開催した国際ワークショップに続き、今回は、この研究プロジェクトの中間報告として、シンポジウムを開催しました。講演内容は大きく2つに分けられ、前半は火災リスクを考慮した火災安全設計の考え方、後半は防火区画の計画に関するケーススタディが紹介されました。避難安全、消防活動、構造耐火の観点から防火区画に必要な性能を整理して、事務所ビルを対象としてケーススタディの結果が発表されました。防災設計の実務に携わる設計者や防災コンサルタント、防災設備メーカー、消防、性能評価機関など約80名が参加し、活発な質疑が行なわれました。



会場風景

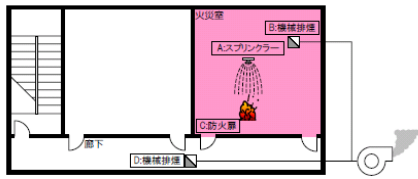
## (内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所  
所属 防火研究グループ  
氏名 萩原 一郎、仁井大策  
電話 029-879-0692,864-6685 (直通)  
E-mail hagiwara@kenken.go.jp,  
nii@kenken.go.jp



## 検証シナリオの選定 (1)

- 検証するシナリオをどのように減らすか
  - ・ 階避難のスタディ



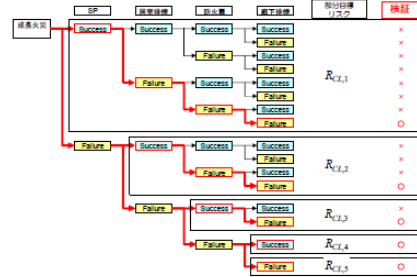
22



講演の様子

## 検証シナリオの選定 (7)

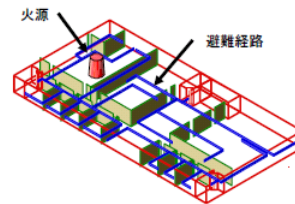
- 代表シナリオの選定



28

## 性能的防火区画設計法

- 避難経路の安全性



日時： 2007年11月28日(水) 13:00~17:30  
 場所： 東京理科大 森戸記念館 第1フォーラム  
 主催： 独) 建築研究所  
 後援： 東京理科大 COE プログラム

## プログラム

## 開会

- 趣旨説明・研究課題の概要 萩原一郎
- 火災時避難安全設計のコンテキストにおける火災リスクと  
設計火源の設定 仁井大策
  - 質疑・討論
- 避難・消防活動・構造耐火の観点からみた防火区画のあり方 原田和典 (京大)
- 防火区画のあり方ケーススタディ 原田和典 (同上)
  - 1) 避難計画から考える防火区画 林 広明 (大成建設)
  - 2) 消防活動と防火区画 山口純一 (大林組)
  - 3) 構造耐火性能について 南野秀司 (東消・交流研)
- 防火設備に求められる性能 平島岳夫 (千葉大)
  - 質疑・討論
- 高田峰幸 (住木センター)
- まとめ 田中哮義 (京大)

## 閉会